

村山市立小学校における
適正規模及び適正配置について

答 申

令和3年2月

将来の小学校の在り方に関する検討委員会

目 次

1. はじめに	1
2. 検討の経緯	2
(1) 検討委員会での話し合い	2
(2) アンケート結果の要約	5
①どんな学校を望んでいるか	
②小学校の適正規模・適正配置について	
③将来の小学校の在り方について	
(3) 将来の村山市の小学校の在り方について	14
①小学校の適正配置等について	
②統合計画の策定について	
③統合の時期・方法について	
④小学校教育のより一層の充実のために	
3. 終わりに	16
資料	
(1) 諮問文書	17
(2) 将来の小学校の在り方に関する検討委員会名簿	18
(3) 検討委員会で検討した資料	19
(4) 委員長の中間見解	22
(5) アンケート調査票と集計結果の概要	25

1. はじめに

将来の小学校の在り方に関する検討委員会（以下、「検討委員会」という）は、令和2年3月24日に村山市教育委員会委員長から以下の諮問を受けました。

将来を見据えた村山市立小学校の適正配置等に関する基本的な考え方及び具体的方策について

検討委員会では、小学校の適正な配置に関する審議を中心に据えながら、子どもたちにより良い教育環境を提供するためには適正配置をどうとらえ、どのように具体的な方策を考えるべきかについて多方面から検討を加えてきたところです。

審議では、児童数の推移や将来推計、学校施設の現状、学校規模による特性等について認識を深めた上で、適正規模の基準、適正配置の考え方、適正化すべき範囲等について検討を行ってきました。また、幼稚園・保育園・認定こども園・小学校・中学校の保護者や教職員、地域へのアンケート調査を実施し意見の収集に努めてきました。

こうした経緯を経て計7回の審議を重ねた結果、新たな村山市立小学校の適正配置に関する基本的な考え方及び具体的方策について結論を得ましたので、ここに答申するものです。

2. 検討の経緯

(1) 検討委員会での話し合い

第1回：令和2年3月24日（火）午後7時～

①委員の委嘱、諮問

- ②議事 「児童数の推移について」
「学校施設の現状について」
「地域に根差した教育について」

③委員の主な意見や質問

- ・今後の児童数の推移について
- ・第2期配置計画（4年前）の児童数推移との比較について
- ・施設の老朽化や長寿命化についての検討について
- ・アンケートの作成について

第2回：令和2年5月29日（金）午後6時30分～

①講話 「村山市の学校への思い」 楯岡小学校長 工藤幸吉 氏

②議事 「学校の長寿命化と村山市の学校」 説明：事務局

③委員の主な意見

- ・長寿命化は、改築、修繕の事業費が大きく現実的な面（20～40年後）から考えられない。
- ・建物は、地域の交流施設や災害時の避難場所として活用すればいいと思う。
- ・長寿命化計画に変更してもコストがかかることが分かった。子どもには安全な場所で生活してもらいたい。
- ・子どもは地域のもの（宝）であるため、大事に育ててあげたい。子どもを産める環境をつくり、より子どもを増やせる方法を論じ、他所から来るような魅力ある学校を目指していければ良いと思う。
- ・長寿命化は必要であるが現行の数を減らす必要があるのではないか。

第3回：令和2年6月26日（金）午後6時30分～

- ①委員の意見発表 「村山市の学校の良さ、大事にしたいこと」
袖崎小学校保護者代表 能登忠博 氏
大久保小学校保護者代表 軽部和敦 氏

- ②議事 「学校規模と子どもの教育」
教員から見た学校規模と子どもの教育
富並小学校教諭 秋生浩子 氏
楯岡小学校講師 伊藤紀子 氏

- ③委員の主な意見
- ・子どもたちの学びに学校規模は関係ないということが分かりました。
 - ・各地域の文化は、絶やすことなく学んでいかなければならない。
 - ・小学校の規模は、大規模であろうが、小規模であろうが、双方にメリット、デメリットがあり規模の大きさは関係ないと思う。地域に根差した小学校は地域の要であるので、できる限り残した方がいいのではないかと思うが、今以上に人数が少なくなった時に現状の活動が維持できるのか不安もある。
 - ・小さい学校は地域との繋がりが強く子ども一人ひとりの顔を地域の人が覚えている。地域と学校との繋がりがあからこそ、地域に根差した子どもが育つと思う。
 - ・それぞれの学校で地域と関りを持ちながら、素晴らしい教育が行われていると感じた。「地元を愛する教育」が重要だと思う。
 - ・「適正規模」というものはあるだろうが、なるべく小規模校もそのまま残していけると良いと考えている。

第4回：令和2年8月20日（木）午後6時30分～

- ①委員の意見発表 「村山市の学校の良さ、大事にしたいこと」
富本小学校保護者代表 石川 拓 氏
西郷小学校保護者代表 庄司敬宏 氏

「村山市の学校の良さ、大事にしたいこと」（地域と学校）
公募委員（袖崎） 永井雄大 氏
公募委員（楯岡） 赤松政典 氏

- ②委員長の中間的見解 佐藤淳一 委員長（資料 P22）

③委員の主な意見

- ・村山市が元気になるには、地域が元気であることが必要。
- ・村山市の教育の良さを生かす。
- ・特色ある学校（特認校）や小中一貫校という選択肢。
- ・子育て支援を充実して村山市の子どもの減少を抑える。
- ・小学校は地域にできる限り存続し、地域懇談会で十分議論して進めていく必要があると思う。
- ・どの地区も地元の見解で言えば現状維持が好ましいが、維持費や適正な教育を受けるためには統合をしなければいけないのかとも考えられる。

第5回：令和2年9月29日（火）午後6時30分～

①委員の意見発表 「村山市の学校の良さ、大事にしたいこと」

戸沢小学校保護者代表	今野直樹 氏
楯岡小学校保護者代表	植松大祐 氏
富並小学校保護者代表	大室洋介 氏
公募委員（戸沢）	笹原美智子氏（文書にて）

②アンケート調査案の提示と討議

③委員の主な意見

- ・アンケートに子どもの意見を聞く欄を設けてはどうか。
- ・校歌や校章、PTA組織、同窓会組織などを考えると、段階的な統合はかなり先を読んで計画的に行わないと徒労が多いと考える。
- ・地域との関りは大切だと感じた。
- ・地域の方々から統合反対の意見が多数あり、少しでも多くの意見が聞けるようにしてほしい。
- ・児童数の多い学校と少ない学校とで集計を分けてほしい。現在、通われている生徒・児童さんの意見が反映されるアンケートになることを切に望みます。

第6回：令和3年1月25日（月）午後6時30分～

①アンケート結果の説明（要約は後述）

小学校の適正配置等について保護者、教職員及び地域住民の意識を把握し、今後の将来の小学校の在り方に関する検討委員会の答申と小学校の在り方を示す計画の策定に反映させるために、令和2年10月に「小学校の適正配置等に関するアンケート調査」を実施しました。

②答申案の骨子についての討議

③委員の主な意見

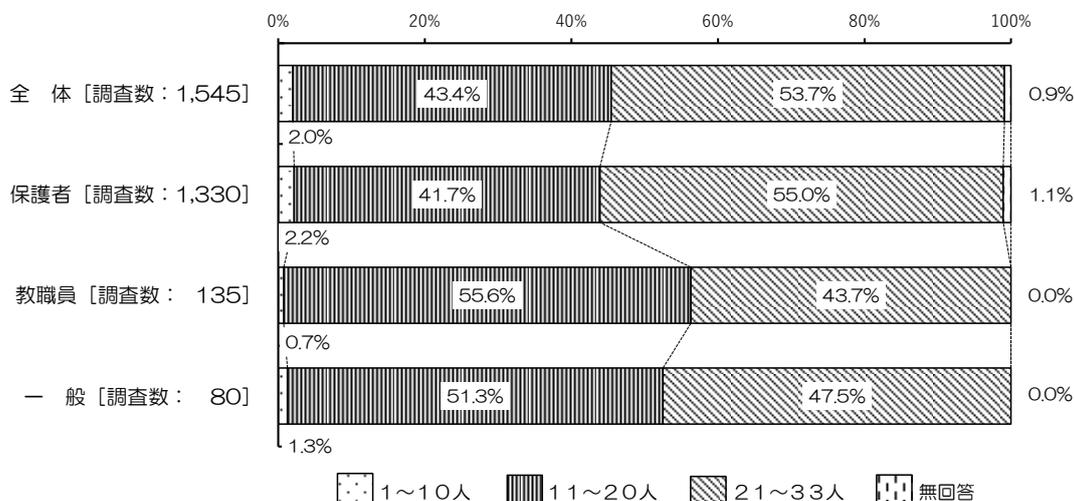
- ・ 答申（案）は検討委員会の今までの話し合いやアンケートの結果から市民の思いを十分反映している内容であり、根本的なところでは妥当であると思う。
- ・ 本来は現在の小学校 7 校の維持という思いを持ちながらも、諸般の事情を鑑みて楯岡中学校区、葉山中学校区にそれぞれ 1 小学校への統合も考えていかなければならないという考えが多く市民にあると思われる。
- ・ アンケートの結果は、今まで検討委員会で話し合われてきた内容とほぼ一致しており、委員会での話し合いが妥当であったことを裏付けるものになっている。今後の小学校の在り方について、より具体的な計画を立案し、統合に向けてのスケジュールを迅速に進めてほしいという意見も多数みられた。
- ・ 小学校で育まれたものは、生きていく上で将来に亘ってその人間の基礎を作るものである。個々人にとって、自分自身の力を十分に伸ばせる公正・公平で優れた教育環境づくりを目指さなければならないと思う。
- ・ 統合によるマイナス面もあるが、逆にプラスの面も多い。プラスの面についてもう少し目を向けた記載があってもいいのではないかと思う。

(2) アンケート結果の要約

①どんな学校を望んでいるか

1) 1 学級あたりの児童数（資料：問 3）

- ・ 11～20 人 43.4%
- ・ 21～33 人 53.7%

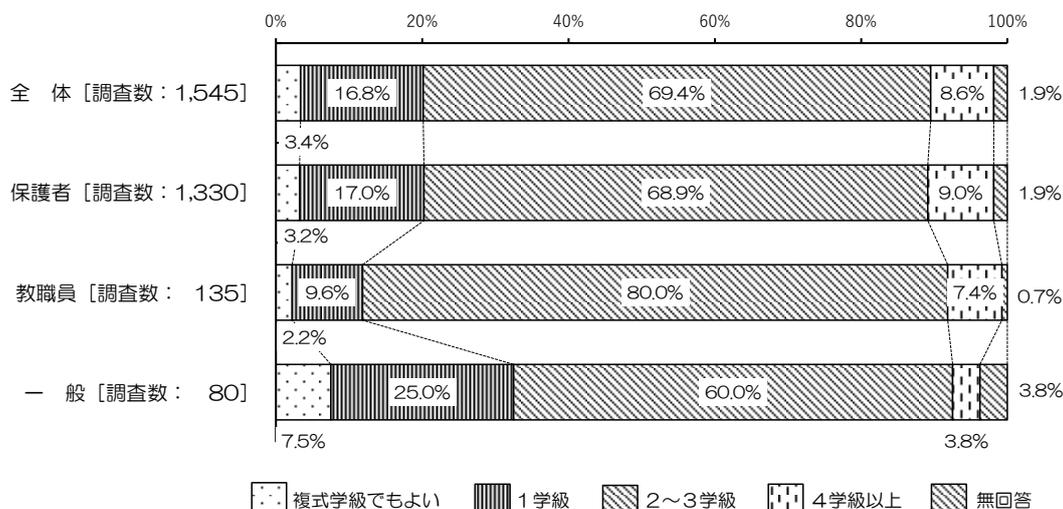


1 学級当たりの望ましい児童数については、全体では「21～33 人」が 53.7%で最も割合が高くなっている。

保護者では、「21～33 人」が 55.0%で割合が最も高く、教職員、一般では、「11～20 人」が多くなっている。保護者、教職員、一般で顕著な差はないようである。

2) 1 学年あたりの学級数 (資料：問 4)

・ 2～3 学級 69.4%

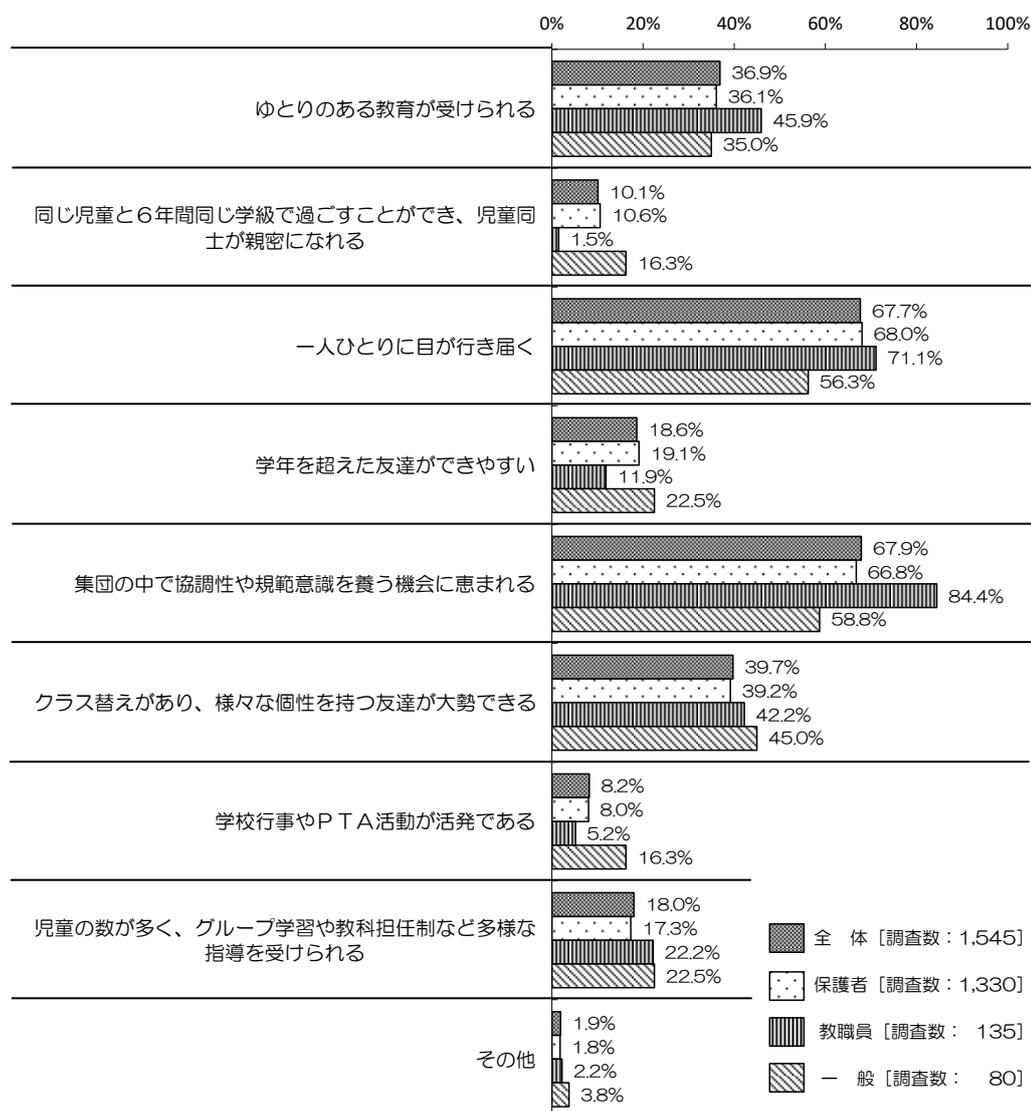


1 学年あたりの学級 (クラス) 数については、全体では、「2～3 学級」が 69.4%で最も割合が高くなっている。

保護者、教職員、一般でも、「2～3 学級」の割合が最も高くなっている。保護者、教職員、一般で顕著な差はないようである。

3) 子どもを育てる学校像として期待すること (資料：問 5)

- ・ 集団の中で協調性や規範意識を養う機会に恵まれる 67.9%
- ・ 一人ひとりに目が行き届く 67.7%
- ・ クラス替えがあり、様々な個性を持つ友達が大勢できる 39.7%
- ・ ゆとりのある教育が受けられる 36.9%



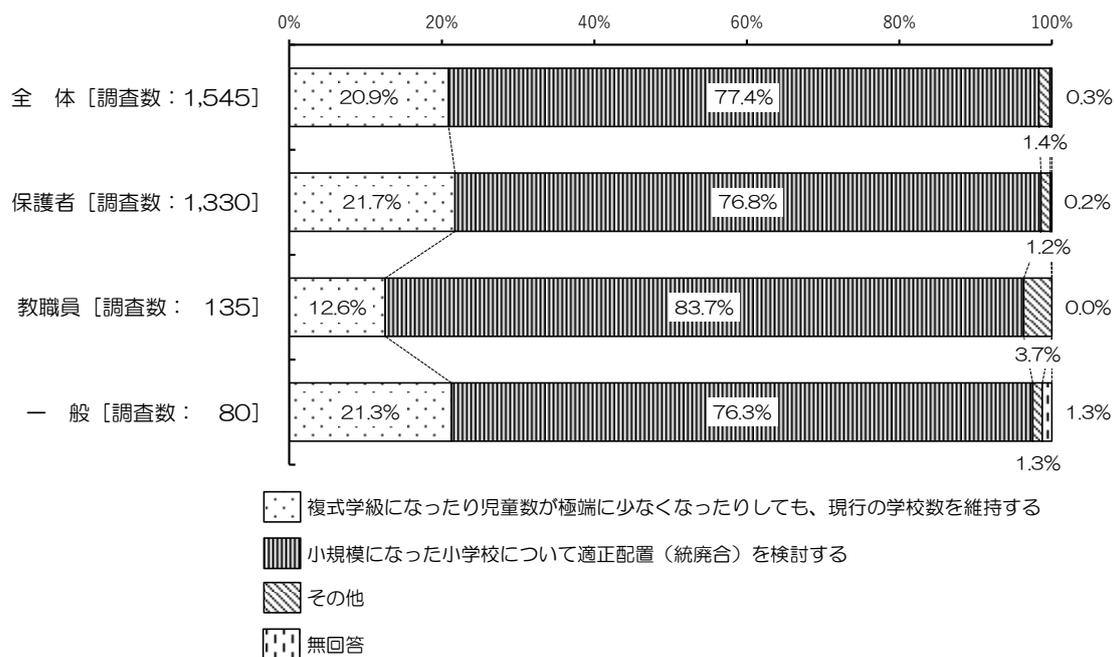
子どもを育てる学校像として期待することについては、全体では、「集団の中で協調性や規範意識を養う機会に恵まれる」が67.9%で最も割合が高くなっている。

保護者では、「一人ひとりに目が行き届く」が68.0%で最も割合が高く、教職員、一般とも、「集団の中で協調性や規範意識を養う機会に恵まれる」の割合が最も高くなっている。保護者、教職員、一般で傾向は同じであり、大規模校と小規模校それぞれの学校の良さや利点が活かされる学校を望んでいる。

②小学校の適正規模・適正配置について

1) 児童数が減少しても現行数を維持するか、統廃合を検討するか（資料：問8）

- ・ 小規模になった小学校について適正配置（統廃合）を検討する 77.4%
- ・ 複式学級が増えるなど小規模化しても、現行の7校を維持する 20.9%

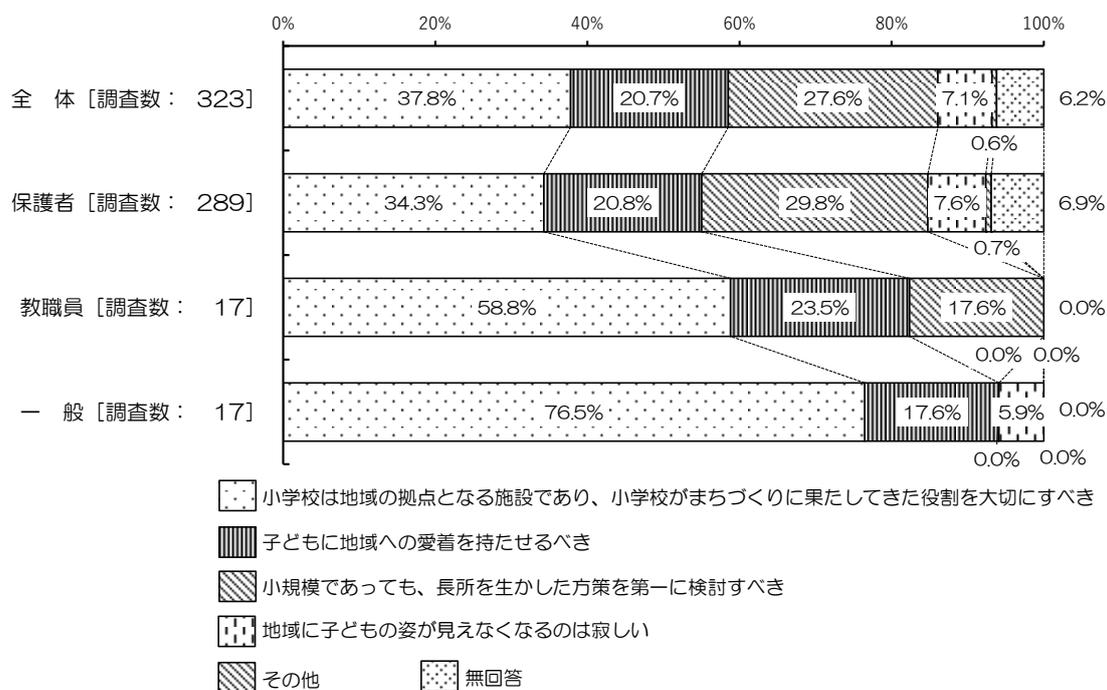


少子化の影響を受けて市内の児童数が減少している今、望ましい学校の規模や配置については、全体では、「小規模になった小学校について適正配置（統廃合）を検討する」が77.4%で最も割合が高くなっている。

保護者、教職員、一般でも「小規模になった小学校について適正配置（統廃合）を検討する」の割合が最も高くなっている。全体、保護者の各小学校区、楯岡中学校区・葉山中学校区でも傾向は同じである。（資料：クロス集計問8）

2) 現行の7校を維持した方がよいと思う理由 (資料：問9)

- ・地域の拠点であり、まちづくりに果たしてきた役割を大切にすべき 37.8%
- ・小規模であっても、長所を生かした方策を第一に検討すべき 27.6%
- ・子どもに地域への愛着を持たせるべき 20.7%

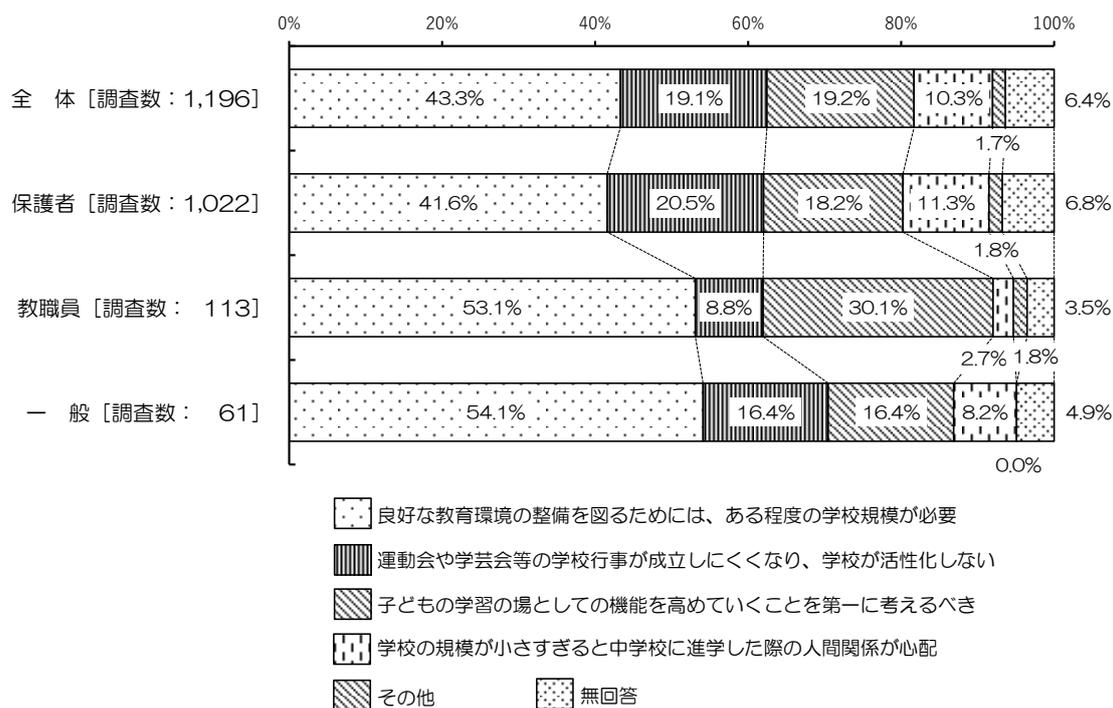


現行の7校を維持した方がよいと思う最大の理由については、全体では、「小学校は地域の拠点となる施設であり、小学校がまちづくりに果たしてきた役割を大切にすべき」が37.8%で最も割合が高くなっている。

保護者、教職員、一般でも「小学校は地域の拠点となる施設であり、小学校がまちづくりに果たしてきた役割を大切にすべき」の割合が最も高く、特に一般での割合が7割を超えている。

3) 小規模になった小学校について統廃合を検討した方がよい理由 (資料：問 10)

- ・ 良好な教育環境の整備を図るためには、ある程度の学校規模が必要 43.3%
- ・ 子どもの学習の場としての機能を高めていくべき 19.2%
- ・ 運動会や学芸会等の学校行事が成立しにくくなり、学校が活性化しない 19.1%



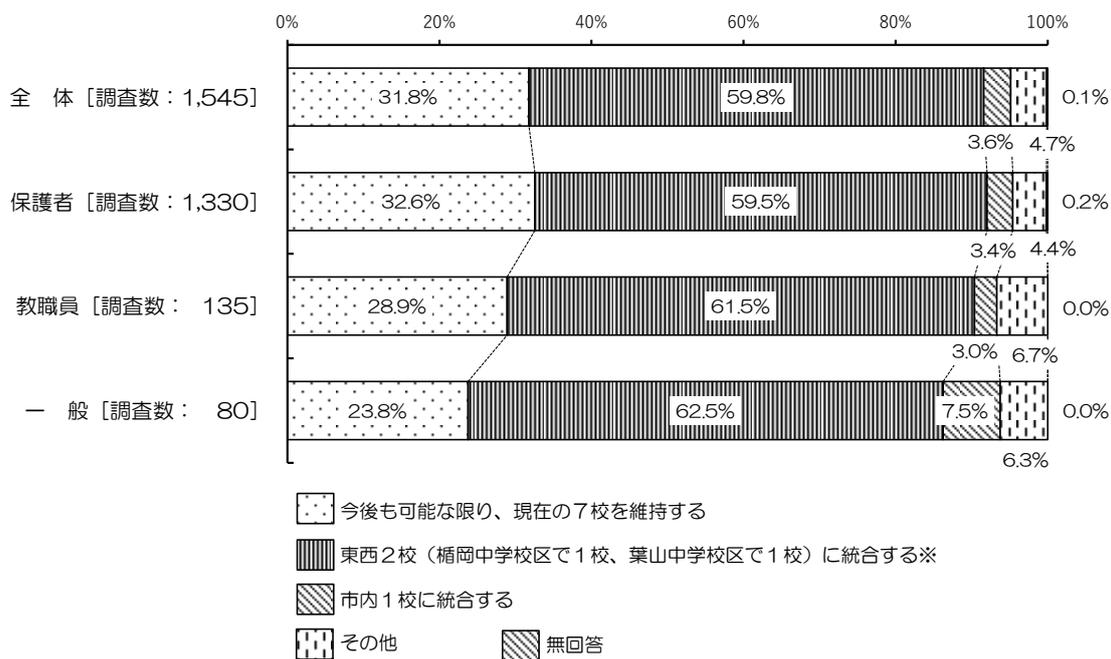
統廃合を検討した方がよいと思う最大の理由については、全体では、「良好な教育環境の整備を図るためには、ある程度の学校規模が必要」が 43.9%で最も割合が高くなっている。

保護者、教職員、一般でも「良好な教育環境の整備を図るためには、ある程度の学校規模が必要」の割合が最も高く、保護者、教職員、一般で傾向は同じである。

③将来の小学校の在り方について

1) 将来の具体的な小学校配置の在り方（資料：問 11）

- ・東西 2 校（楯岡中学校区で 1 校、葉山中学校区で 1 校）に統合する 59.8%
- ・今後も可能な限り、現在の 7 校を維持する 31.8%
- ・市内 1 校に統合する 3.6%



※・楯岡中学校区とは：楯岡小学校、西郷小学校、袖崎小学校
 ・葉山中学校区とは：大久保小学校、富本小学校、戸沢小学校、富並小学校

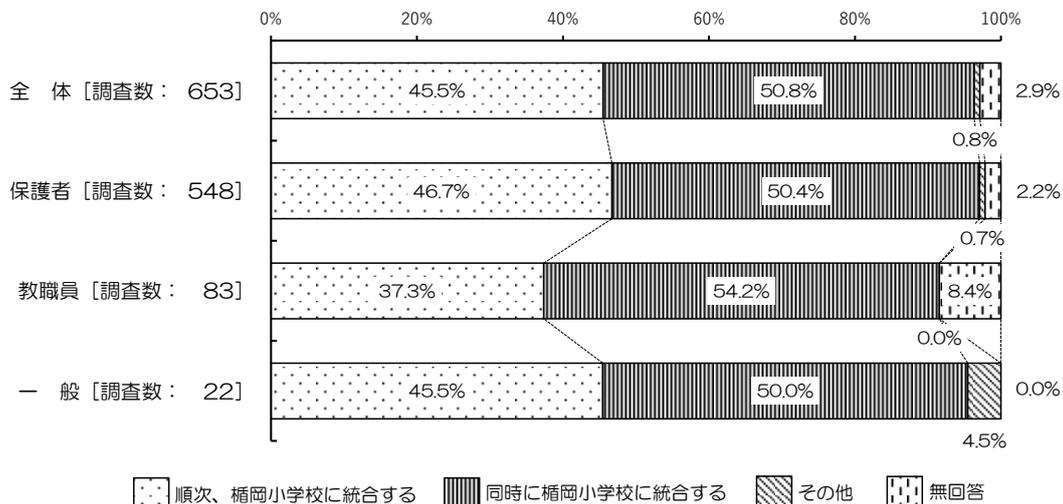
将来の望ましい配置については、全体では、「東西 2 校（楯岡中学校区で 1 校、葉山中学校区で 1 校）に統合する」が 59.8% で最も割合が高くなっている。

保護者、教職員、一般でも「東西 2 校（楯岡中学校区で 1 校、葉山中学校区で 1 校）に統合する」の割合が最も高くなっている。保護者、教職員、一般で傾向は同じであるが、クロス集計では、小学校区により数値の変化がある。（資料：クロス集計問 11）

2) 統合を進めるとした場合の方法 (資料：問 12)

ア 楯岡中学校区 (すべて地域懇談会での合意を得てから)

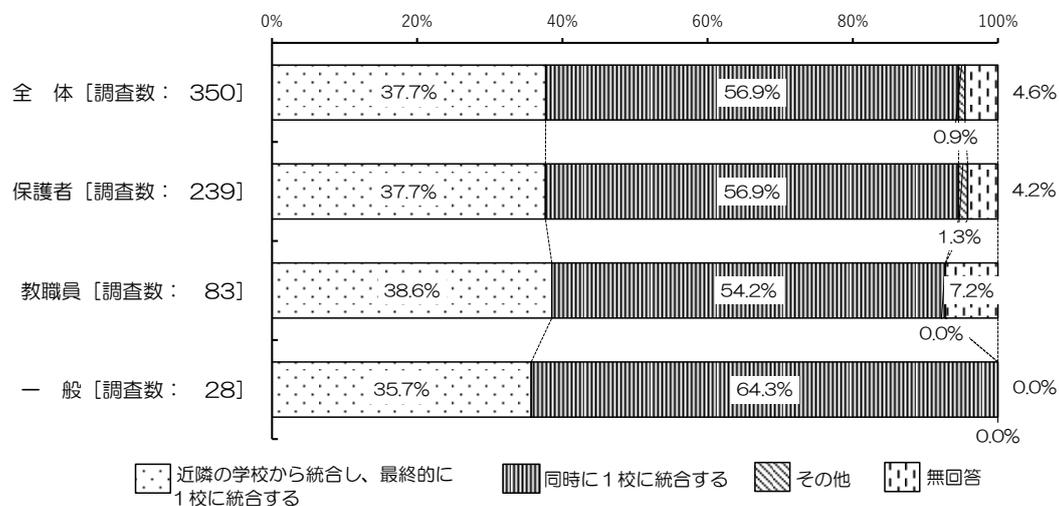
- ・同時に楯岡小学校に統合する 50.8%
- ・順次、楯岡小学校に統合する 45.5%



東西2校 (楯岡中学校区で1校、葉山中学校区で1校) に統合する場合の方法については、全体では「同時に楯岡小学校に統合する」が50.8%で最も割合が高くなっている。保護者、教職員、一般でも「同時に楯岡小学校に統合する」の割合が最も高くなっている。

イ 葉山中学校区 (すべて地域懇談会での合意を得てから)

- ・同時に1校に統合する 56.9%
- ・近隣の学校から統合し、最終的に1校に統合する 37.7%



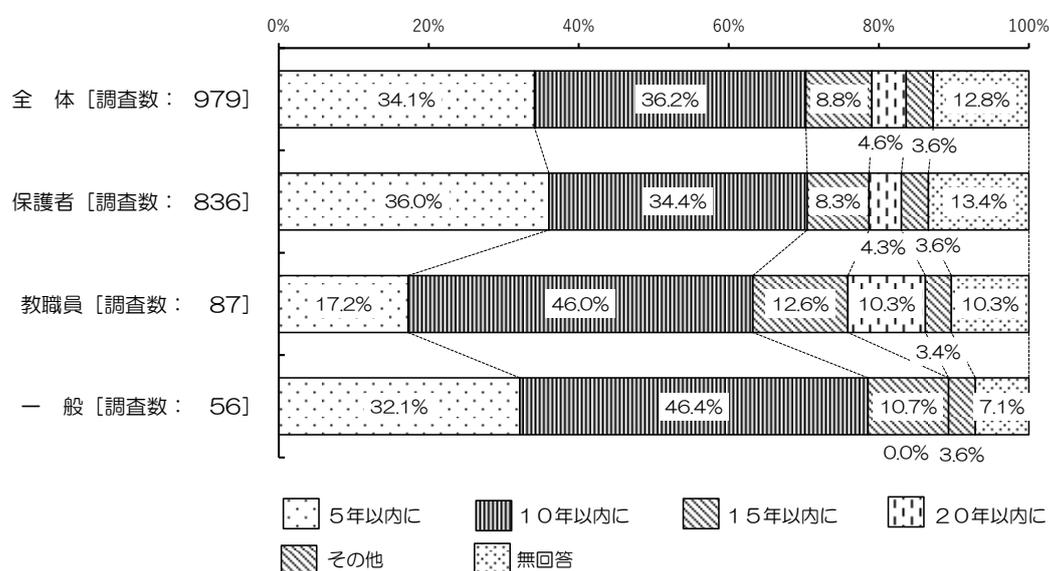
東西2校（楯岡中学校校区で1校、葉山中学校校区で1校）に統合する場合の方法については、全体では「同時に1校に統合する」が56.9%で最も割合が高くなっている。

保護者、教職員、一般でも「同時に1校に統合する」の割合が最も高くなっている。

クロス集計では、学区ごとの差はあるが葉山中学校校区が早期の統合を望む傾向にある。（資料：クロス集計問12）

3) 統合を進めるとした場合の時期（資料：問13）

- ・10年以内に 36.2%
- ・5年以内に 34.1%



統合を進めるとした場合の時期については、全体では「10年以内に」が36.2%で最も割合が高くなっている。

教職員、一般でも「10年以内に」の割合が最も高くなっている。保護者では「5年以内に」が36.0%で最も割合が高くなっている。

保護者は、早期の統合を望む傾向にあり、小規模の小学校で早期の統合を望む傾向にある。（資料：クロス集計問13）

(3) 将来の村山市の小学校の在り方について（答申骨子）

①小学校の適正配置等について

楯岡中、葉山中学校区でそれぞれ1校（東西2校）に統合することが望ましい

村山市においても将来の児童数の急激な減少、複式学級の増加等が見込まれ、望ましい子どもの教育条件の維持が困難になることが予想されています。また、今後予想される、校舎改築等施設面での教育条件の維持についても、財政的な面で困難が予想されています。

アンケート集計の結果では、保護者、教職員、地域一般それぞれのほぼ3分の2が楯岡中学校区、葉山中学校区各1校への統合への方向に賛成しています。ただし、全員が積極的に統合を支持しているわけではなく、できれば現行の7校を維持したいという根底の思いがありながら、子どもたちのより良い教育条件を考えての賛成という意見が多い。統合にあたってはアンケートに示された望ましい学校像をうけ、これまで以上にいい学校を作って欲しいという市民の要望が生かされることを望みます。また、小学校は地域の核となっており、現行の7校がそれぞれ地域と密接に結びついた良い教育がなされているという現状を踏まえて、その良さを可能な限り生かす統合になることを強く希望します。

②統合計画の策定について

統合計画策定委員会を設置し検討すること

小学校の適正配置の問題は学校の在り方のみならず、村山市の今後の発展計画や財政等、多様な問題を含んでいます。統合計画の策定は、楯岡中学校区、葉山中学校区を分けて、村山市・村山市教育委員会で統合計画策定委員会を組織し、専門的な意見を集約するとともに、地域や学区民の声を十分聴きながら進めるのが望ましいと考えます。

③統合の時期・方法について

同一時期・方法にこだわらず、地域や学区民の合意が得られた地域から可能な限り早期に統合を進めるべき

統合案については村山市・村山市教育委員会による楯岡中学校区、葉山中学校区の統合計画策定委員会が主体的に原案を検討するが、アンケートの集計結果によると、各地域・学区の小学校適正配置に関する考え方や、学校が置かれている客観的な状況にも違いがあり、必ずしも同一の時期や方法にこだわらず、楯岡中学校区、葉山中学校区で合意のできた地域から、統合を進めるべきと考えます。

また、基本的に保護者、教職員、地域一般の3分の2が統合の時期は5年後あるいは10年後までにとアンケートで回答していることから、統合案を可能な限り早期に策定し、地域との合意を得て統合を進めるべきと考えます。

④小学校教育のより一層の充実のために

ワーキンググループの設置と統合計画の推進

新しい小学校への統合の目的は、村山市の小学校教育のより一層の充実にあります。地域に根差し、豊かな人間性や学力を育ててきたこれまでの7小学校の良さを継承しさらに発展させるため、統合計画を推進するにあたり統合計画策定委員会の中に施設及び教育計画等に関するワーキンググループを設置し、その案も併せて検討しながら進めるべきと考えます。

また、アンケート調査によれば、保護者、教職員、地域住民の望んでいる学校は、次の4点に集中しています。

- ・集団の中で協調性や規範意識を養う機会に恵まれる
- ・一人ひとりに目が行き届く
- ・クラス替えがあり、様々な個性を持つ友達が大量できる規模
- ・ゆとりのある教育が受けられる

この4項目に加え、本市教育の最終目的である「故郷村山市を愛し故郷のために尽くせる人間」を育成するために、市として力を入れてきた「地域に根差した体験を重視し、感性とコミュニケーション力を高める」教育も当然重視されます。

さらに新しい統合小学校には、旧小学校区の横のつながり、小中学校の縦の繋がりが重視されます。この点に関してアンケート調査や、検討委員会では、いわゆる小中一貫校も選択肢の一つとの意見も出されており、今後の研究課題であり考慮することが必要と考えます。

3. おわりに

村山市の小学校の適正規模と適正配置については、平成22年度に検討委員会を設置し市教育委員会に答申して以来、10年ぶりに検討委員会を設置し検討することとなりました。

日本社会全体で少子高齢化が進む中、本市においても人口減少に歯止めはかからず、学校の小規模化が進んでいます。また、施設の老朽化により今後、教育環境が変化していくことも予測されています。学校は教育施設であると同時に、地域の拠点としての役割を持っています。学校は地域の方々が育んできた地域の宝であり、学校の適正配置や統廃合は大変難しい課題であります。

検討委員会では、「児童数の今後の推移」「学校の長寿命化と村山市の学校」「学校規模と子どもの教育」「地域と学校」と毎回テーマごとに話し合いを行い、小規模校の長所や課題、複式学級の現状について認識を深めた上で慎重に検討を進めてきました。本会では児童の立場に立つことを最優先として審議を重ねるとともに、保護者等へのアンケート調査も行い、保護者や地域等の事情を考慮して答申をまとめました。

この答申を受け、基本方針・計画の策定及び基本計画を推進するにあたり、保護者や地域住民等の十分な理解と協力を得たうえで、答申内容の円滑な実現に向け努力されることを強く望みます。

最後に、この答申によって、村山市立小学校の教育環境がより整備され、魅力ある学校として、将来の社会を担う心身ともに健やかな児童の育成が図られることを期待します。

将来の小学校の在り方に関する検討委員会
委員長 佐藤 淳一 様

村山市教育委員会
教育長 菊地 和郎

村山市立小学校適正規模・適正配置等について（諮問）

村山市立小学校のより良い教育環境を整備するため、将来の小学校の在り方に関する検討委員会設置要綱第2条の規定に基づき、下記事項について諮問します。

1 諮問事項

将来を見据えた村山市立小学校の適正配置等に関する基本的な考え方及び具体的方策について

2 諮問理由

本教育委員会では、平成23年3月に将来の小学校の在り方に関する検討委員会からの答申を受け、平成23年8月に「村山市立小学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」を策定しました。平成25年4月には、この方針に基づき、子どもたちにとって望ましい教育環境の提供について協議した結果、楯岡小学校と大倉小学校を統合しました。平成28年には、「村山市第5次総合計画」等を参酌して第2期配置計画を策定し、引き続き小学校の適正規模・適正配置に努めてまいりました。

日本社会全体での人口減少問題がクローズアップされる中、本市においても人口減少に歯止めはかからず、少子化により児童数が減少し、学校の小規模化が進んでいます。今後、複式学級になる小学校の増加や児童数の減少、施設の老朽化により教育環境が変化していくことが予測されています。一方、地域に根差した教育も強く叫ばれており、また、小学校は地域コミュニティーの中心となっている現状でもあります。

このような状況のなか、令和元年12月の本市総合教育会議において「村山市立小学校の適正配置に関する計画について」の協議を行い、将来的な視野にたった小学校の教育環境についての検討が必要であり、教育委員会において新たな「小学校適正配置計画」の検討を行うこととなりました。また、平成28年に策定した現適正配置計画では、計画の最終年度である令和2年度に次期計画の策定を行うこととしています。

つきましては、本市のより望ましい教育環境の実現を図るため、5年後、10年後と村山市の将来を見据えた小学校適正規模・適正配置等について検討、審議していただきご提言をいただきますようお願い申し上げます。

将来の小学校の在り方に関する検討委員会委員名簿

(順不同・敬称略)

No.	区 分	氏 名	備 考
1	地域代表	戸 田 紘 義	楯岡元気なまちづくり協議会
2		西 塚 茂 男	西郷地域元気な街づくり協議会
3		齋 藤 一 雄	大倉地域元気な街づくり協議会
4		斉 藤 弘 昭	袖崎まちづくり協議会
5		高 谷 尚 市	大久保地域元気な街づくり推進協議会
6		○青 木 八 榮子	富本地域街づくり協議会
7		松 田 芳 信	村山戸沢まちづくり協議会
8		工 藤 盛 満	かがやきの里大高根推進協議会
9	保護者代表	植 松 大 祐	楯岡小学校
10		庄 司 敬 宏	西郷小学校
11		能 登 忠 博	袖崎小学校
12		軽 部 和 敦	大久保小学校
13		石 川 拓	富本小学校
14		今 野 直 樹	戸沢小学校
15		大 室 洋 介	富並小学校
16	公共的団体	佐 藤 朋	公益社団法人 村山青年会議所
17	学校関係者	工 藤 幸 吉	小学校長会 (楯岡小学校長)
18		笹 原 聡	中学校長会 (楯岡中学校長)
19	学識経験者	◎佐 藤 淳 一	元楯岡小学校長
20		高 橋 いづみ	元教育委員
21		半 澤 正 友	教育委員会外部評価委員
22	公募委員	永 井 雄 大	(袖崎在住)
23		笹 原 美智子	(戸沢在住)
24		赤 松 政 典	(楯岡在住)

◎委員長 ○副委員長

小学校の適正規模と適正配置に向けて

検討委員会では、「児童数の今後の推移」「学校の長寿命化と村山市の学校」「学校規模と子どもの教育」「地域と学校」と毎回テーマごとに話し合いを行い、小規模校の長所や課題、複式学級の現状について認識を深めた上で慎重に検討を進めてきました。

学校は教育施設であると同時に、様々な意味で地域の拠点としての役割を持っています。学校は地域の方々が育ててきた地域の宝であり、学校の適正配置や統廃合は大変難しい課題であります。こうしたなかで子どもたちに対してよりよい教育環境を提供していくことは、私たちに課せられた責務であります。

○学校規模による利点と課題

望ましい学校規模について検討するために、小規模校・大規模校の利点と課題を整理したものが次の表です。なお、これらは文部科学省が例示している一般的な傾向です。検討委員会でもこれらのことについて話し合い、子供たちの学びに規模による差は特に関係ないと認識しました。

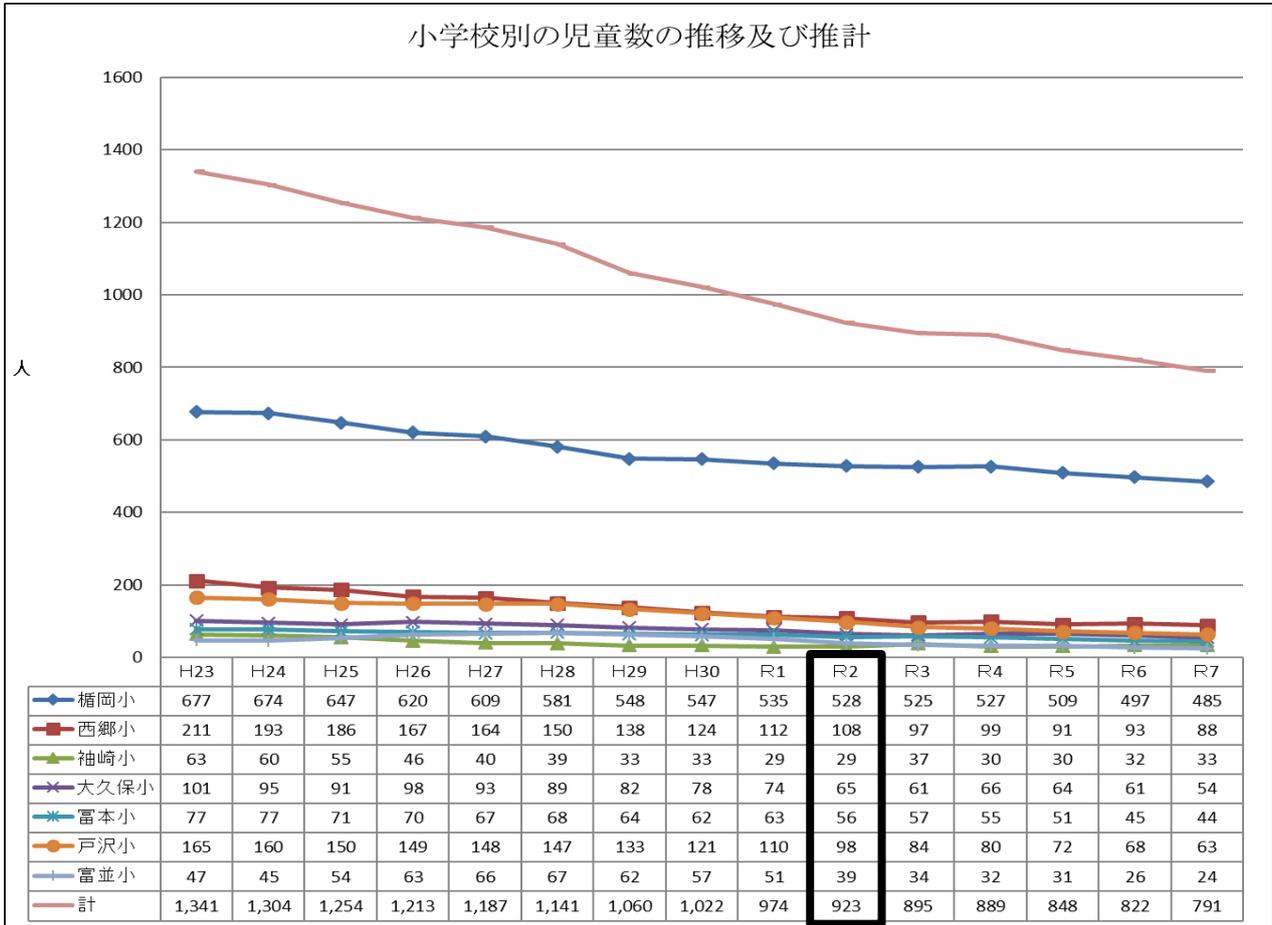
	利 点	課 題
小規模校	<ul style="list-style-type: none"> ①一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい ②意見や感想を発表できる機会が多くなる ③様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる ④複式学級においては、教師が複数の学年間を行き来する間、児童生徒が相互に学び合う活動を充実させることができる ⑤児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ①クラス替えが全部又は一部の学年でできない ②クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない ③体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる ④生徒指導上課題がある子供の問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける ⑤児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる
大規模校	<ul style="list-style-type: none"> ①児童生徒同士の間関係や児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編制ができる ②児童生徒を多様な意見に触れさせることができる ③学級同士が切磋琢磨する環境を作ることができる ④学級の枠を超えた習熟度別指導や学年内での教員の役割分担による専科指導等の多様な指導形態をとることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校行事等において、係や役割分担のない子供が現れる可能性があるなど、一人一人が活躍する場や機会が少なくなる場合がある ②集団生活においても同学年の結び付きが中心となり、異学年交流の機会が設定しにくくなる場合がある ③同学年でもお互いの顔や名前を知らないなど、児童生徒間の人間関係が希薄化する場合がある ④特別教室や体育館、プール等の利用に当たって授業の割当てや調整が難しくなる場合がある

※文部科学省：公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引きより抜粋

○児童数の推移と推計について

下のグラフと表には、市内の学校別の児童数について過去9年間の推移と今後5年間の推計を載せています。令和元年度では児童数974人と1,000人を割り、平成23年度の約73%、平成初期の約2,400人に比べると約40%まで減少しております。

今後も減少傾向が進行し25年後の令和27年には500人を下回り（下段の表「児童数の推移」参照）、学校の小規模化が一層進むことが予想されます。この減少傾向は、出生率の低下や稼働年齢層の転出等の要因が加われば更に加速すると考えられます。



※R2までは実数、R7までは出生数からの推計。大倉小は楯岡小に合算

【児童数の推移】

令和2年3月10日現在

児童数将来推計

(単位:人)

	2020年 令和2	2025年 令和7	2030年 令和12	2035年 令和17	2040年 令和22	2045年 令和27
楯岡小	528	485	442	376	322	272
西郷小	108	88	80	68	58	49
袖崎小	29	33	30	26	22	19
大久保小	65	54	49	42	35	30
富本小	56	44	40	34	29	25
戸沢小	98	63	57	49	42	35
富並小	39	24	22	19	16	13
合計	923	791	720	614	524	443

※R2は実数、R7は出生数からの推計、R12以降は国立社会保障・人口問題研究所発表の年少の「将来推計人口」をもとに独自算出

※計算による調整あり

[学校規模の推移]

学校規模（普通学級数）	昭和 62 年度	平成 26 年度	令和 2 年度	令和 7 年度
標準規模 (12～18：1 学年 2～3 学級)	楯岡小・西郷小 戸沢小	楯岡小	楯岡小	楯岡小
小規模 (6～11：1 学年 1 学級以上)	大倉小・袖崎小 大久保小・ 富本小・富並小	西郷小 大久保小 富本小・戸沢小	西郷小 大久保小 富本小・戸沢小	西郷小 大久保小 戸沢小
過小規模 (1～5：複式学級含む)	山ノ内小	袖崎小 富並小	袖崎小 富並小	袖崎小 富本小 富並小

○学校施設の状況

改築や耐震補強を行うなどにより全ての小学校の安全性は確保されています。学校施設は、児童の学習の場であるとともに、防災拠点、避難所及び地域コミュニティの場としての役割を果たす重要な施設でもあります。今後は施設の目標使用年数 80 年程度は使用できるように、予防保全的な維持管理を行っていきます。今後 10 年間に要する施設整備費は下表の金額が見込まれています（予定）

	代表的な 建築年度	経過年数	80 年までの 残期間(年)	今後 10 年間に要する 施設整備費
楯岡小	平成 30 年度	1	79	9 千 4 百万円
西郷小	昭和 61 年度	33	47	8 億 1 千 8 百万円
袖崎小	昭和 44 年度	50	30	1 億 1 千 5 百万円
大久保小	平成 26 年度	5	75	0 百万円
富本小	平成元年度	30	50	2 億 3 千 6 百万円
戸沢小	平成 3 年度	28	52	2 億 5 千 4 百万円
富並小	平成 2 年度	29	51	8 千 7 百万円

※村山市学校施設長寿命化計画（令和 2 年 3 月策定）より抜粋

○地域に根差した教育～特色ある学校づくり～

村山市では、市教育振興基本計画において「豊かな人間性と確かな学力を身に付けた、村山市の未来を拓く人づくり」を基本目標に、具体的な重点施策を設定し、「HYPER GOGO！むらやま夢体験プランⅡ」に取り組んでおります。学校内外において、五感を使って市内の多様な教育財産の活用を図った未来志向の体験を行い、感性やコミュニケーション力を磨き、ふるさと村山市が好きな人間の育成に取り組んでおります。

各小中学校において、特色ある授業や学校行事を計画し、主に特別活動や生活科、総合的な学習の時間に実施しております。小学校では、地域探索、そばや里芋、米の栽培、伝統芸能体験、ボランティアや福祉的な活動を行っています。

このような学習活動を継続する中で、「体験的な学習や活動が、子どもたちの感性やコミュニケーション力の育成に結びついていること」や「家庭・地域との連携がより進んできていること」が児童生徒のアンケートや「令和元年度 教育委員会アンケート」、平成 31 年度全国学力学習状況調査などからも読み取ることができ、家庭や地域との連携に手ごたえを感じております。

※第 1 回将来の小学校の在り方に関する検討委員会より

委員長の中間的見解

委員長 佐藤 淳一

当委員会では、これまで開催された第1回～第3回の委員会の中で、「村山市の児童数の急激な減少」「学校の長寿化と村山市の学校」「学校規模と子どもの教育」という3つの視点から「将来の小学校の在り方」について検討してきました。

それぞれのテーマ毎に、教育委員会から学校の事情や教育委員会の考えを示して頂くとともに、現場の先生方を招聘し、現在の村山市の学校の様子や将来の学校の在り方についてご意見を伺ったり、代表の委員の皆様方からは、それぞれの立場から将来の学校の在り方についてのお考えを提案して頂いたりしてきました。

それを基に、各回、グループ討議や全体討議を通して、テーマに対する委員の皆様方の貴重なご意見を頂いてきました。

本日は、「地域と学校」というテーマで委員の代表の方々から発表を頂き、それを基に話し合いをすることになっていますが、さらに「村山市の10年後の小学校はどのようにあればいいか」といったところまで具体的に検討内容を深めていって頂きたいと考えております。

そこで、一応今までの話し合いを振り返りながらまとめをし、それに基づいて今日のテーマの検討してみても、と考えておりますので、ここで私の方で中間的な見解を大まかにまとめさせて頂きたいと思っております。

まず、第1回の委員会では、教育委員会より「村山市の児童数が5年後の令和7年度には現在の児童数より約130人ほど減少し、7校中3校で複式学級が生じることが予想されること。また、現在の状態を考慮すると、その後の5年間ではさらに急激に減少が進むのではないかと考えられる、などの予想が示されました。

続いて、第2回の委員会では、「校舎の老朽化と存続に向けた予算的課題について」話し合いをしました。

教育委員会からは「学校施設長寿化計画」に基づいて学校施設の存続を図っていきたいと考えている旨説明を頂きました。

計画の中では、学校施設の今後の老朽化の事情を詳しく説明頂くとともに「村山市立小学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」や「改修等の基本的な方針」についても説明頂きました。

現在の市内7つの小学校を、今後老朽化に伴って、随時新築あるいは改築といった方法で対応していくことは予算的に極めて困難であるため、施設の長寿化を図り対応していく予定であるとのことですが、長寿化による施設の保全・更新をしても今後10年間で25億円に及ぶ予算が必要になることが予想され、大きな財政的負担が生じることになります。

このことを受けて、委員の皆様からは、「大変難しい問題であるが、財政的に可能であれば、現状を維持しながら、地域の子どもたちを大切に育ててほしい。」という意見などが出されましたが、一方で「学校関係施設の経費増大を考えた場合、学校の適正規模を考慮した上で統合を進めていかなければならないのではないか。」という意見が出されました。

3回目の委員会では、第1回のテーマと関連させながら、「学校規模と子どもの教育」をテーマに話し合いました。村山市では大規模校、小規模校ともに、それぞれの地域の特徴を生かしながら、ともにそのメリットを生かし充実した教育実験が行われ大きな成果が収められており、規模により教育の差はないとの理解が得られました。

各委員からは、「小学校は地域の要なので存続の方向で進めてほしい。」という意見が出されましたが、「子どもたちにとって何が一番良いかを第一に考えて、できるだけ早い統合を希望したい。」という意見も出されました。

以上、各テーマに関して委員の方々から出された意見を本当におおざっぱにまとめさせて頂きましたが、子どもたちはもとより、保護者の皆様、地域の方々すべてにかかわる大変大きな問題で、すぐに答えを出せるわけではありません。改めて、将来の学校の在り方に対する考え方の多様性がはっきりしてきたと言えるかもしれません。

しかし、この委員会が回を重ねるごとに、村山市の学校教育の現状や将来に向けての様々な課題が理解され、自由闊達に意見を交換できる素晴らしい場になってきているのではないかと考えています。

先ほど申し上げましたとおり、今日は「地域と学校」というテーマで検討して頂くわけですが、さらに話し合いを具体的にさせていただき「村山市の10年後の小学校はどのようにあればいいか」といった内容まで話し合いを深めていただければと思います。

そこで、事務局から、今後の村山市の小学校配置の在り方の可能性として、いくつかの選択肢を示していただき、それに基づいて話し合いをお願いしたいと思います。今日いただいたご意見については、今後作成する「将来の小学校の在り方に関するアンケート（仮名）」に十分反映させていきたいと考えております。このアンケートは当委員会答申に関わる大切なものになります。ぜひ忌憚のないご意見を聞かせ頂ければと思います。

よろしく願いいたします。

事務局案

今後の村山市の小学校配置の在り方の
可能性として想定される基本的な選択肢

- 1 今後も可能な限り、現在の7校を維持する。

- 2 将来、楯岡中学校区1校、葉山中学校区1校に統合する。
 - ①楯岡中学校区（全て地域懇談会での合意を経て）
 - 1) 順次、楯岡小学校に統合
 - 2) 同時に楯岡小学校に統合
 - ②葉山中学校区（全て地域懇談会での合意を経て）
 - 1) 近隣の学校から統合し、最終的に1校に統合（段階的）
 - 2) 同時に既存の1校に統合
 - 3) 同時に新しい学校に統合

- 3 将来、市内1校に統合
 - ①楯岡中学校区、葉山中学校区 各1校を経て
 - ②同時に1校に統合

- 4 その他・・・

小学校の適正配置等に関するアンケート調査

1 調査の概要

(1) 目的

小学校の適正配置等について保護者、教職員及び地域住民の意識を把握し、今後の将来の小学校の在り方に関する検討委員会の答申と小学校の在り方を示す計画の策定に反映させることを目的に調査する。

(2) 調査対象

- ①幼稚園・保育等施設に通園する子どもを持つ保護者（市内在住のみ）
- ②小中学校に通学する子どもを持つ保護者
- ③市内の小中学校に勤務するすべての教職員（学校基本調査による本務者）
- ④地域住民（各地域街づくり協議会より各地域 10 人）

人数：2,040 人（内訳：保護者 1,819 人、県費負担教職員 141 人、地域住民 80 人）

※小学校、中学校の保護者は PTA 数

(3) 調査時期

令和 2 年 1 0 月

(4) 結果の公表

将来の小学校の在り方に関する検討委員会の答申とあわせて参考資料として公表する。

2 回収結果

(1) 回収数 (率)	①保護者 1,339 件 (73.6%)
	②教職員 135 件 (95.7%)
	③地域一般 80 件 (100.0%)
	<u>合計 1,554 件 (76.2%)</u>

(2) 有効数 (率)	①保護者 1,330 件 (73.1%)
	②教職員 135 件 (95.7%)
	③地域一般 80 件 (100.0%)
	<u>合計 1,545 件 (75.7%)</u>

小学校の適正配置等に関するアンケート調査票

将来の小学校の在り方に関する検討委員会

村山市教育委員会

このアンケート調査票は、すべての小学校に関する内容です。小学生以外のお子様をお持ちの方もお答えくださいますようお願いいたします。あてはまる番号を一つ選んで○をつけてください。(問2・問5・問7は複数回答可) 回答にあたっては、お子様との話し合いの機会を持っていただき、お子様の意見も参考にさせていただければ幸いです。

なお、アンケート調査票が複数枚届いた方は、1枚にだけご回答いただき、1番上のお子様を通じて担任の先生に提出してください。

(1) あなたのお子様についてお伺いします

問1. あなたのお子様の小学校区を教えてください。

1. 楯岡小学校
2. 西郷小学校
3. 袖崎小学校
4. 大久保小学校
5. 富本小学校
6. 戸沢小学校
7. 富並小学校

問2. お子様の校種等を教えてください(複数回答可)

1. 就学前
2. 小学生
3. 中学生

(2) 小学校の望ましい学校規模等についてお伺いします

問3. 1学級当たりの児童数は何人くらいが望ましいと思いますか。

1. 1～10人
2. 11～20人
3. 21～33人

問4. 1学年当たりの学級（クラス）数は何学級くらいが望ましいと思いますか。

1. 複式学級でもよい
2. 1学級
3. 2～3学級
4. 4学級以上

※複式学級：学年ごとに学級を編制するのではなく、複数の学年で1学級にする学級編制のこと。1・2年は合わせて8人以下、2・3年以上は合わせて16人以下で複式学級となります。

問5. 子どもを育てる学校像として、どのようなことを期待しますか（3つまで）

1. ゆとりのある教育が受けられる
2. 同じ児童と6年間同じ学級で過ごすことができ、児童同士が親密になれる
3. 一人ひとりに目が行き届く
4. 学年を超えた友達がしやすい
5. 集団の中で協調性や規範意識を養う機会に恵まれる
6. クラス替えがあり、様々な個性を持つ友達が大量できる
7. 学校行事やPTA活動が活発である
8. 児童の数が多く、グループ学習や教科担任制など多様な指導を受けられる
9. その他（具体的に： _____)

(3) 小学生の望ましい通学時間についてお伺いします

問6. 通学時間は、どの程度が望ましいと思いますか（バス等の利用も含めて）

1. 15分以内
2. 30分以内
3. 45分以内
4. 60分以内

問7. 通学方法として、どのような方法が望ましいと思いますか（複数回答可）

1. 徒歩
2. スクールバス
3. 路線バスなどの公共交通機関
4. 保護者による送迎
5. その他（具体的に： _____)

(4) 小学校の適正規模・適正配置についてお伺いします

問8. 少子化の影響を受けて、市内の児童数が減少しています。

どのようにすることが望ましいと思いますか。

1. 複式学級になったり児童数が極端に少なくなったりしても、現行の学校数を維持する
2. 小規模になった小学校について適正配置（統廃合）を検討する
3. その他（具体的に： _____)

問9. 問8で「1」と答えた方は、そう思われる最大の理由は何ですか。

1. 小学校は地域の拠点となる施設であり、小学校がまちづくりに果たしてきた役割を大切にすべき
2. 子どもに地域への愛着を持たせるべき
3. 小規模であっても、長所を生かした方策を第一に検討すべき
4. 地域に子どもの姿が見えなくなるのは寂しい
5. その他（具体的に： _____)

問10. 問8で「2」と答えた方は、そう思われる最大の理由は何ですか。

1. 良好な教育環境の整備を図るためには、ある程度の学校規模が必要
2. 運動会や学芸会等の学校行事が成立しにくくなり、学校が活性化しない
3. 子どもの学習の場としての機能を高めていくことを第一に考えるべき
4. 学校の規模が小さすぎると中学校に進学した際の人間関係が心配
5. その他（具体的に： _____)

(5) 将来の村山市の小学校の在り方についてお伺いします

問11. 将来、どのような配置が望ましいと思いますか。

1. 今後も可能な限り、現在の7校を維持する
2. 東西2校（楯岡中学校区で1校、葉山中学校区で1校）に統合する
 - ・楯岡中学校区とは：楯岡小学校、西郷小学校、袖崎小学校
 - ・葉山中学校区とは：大久保小学校、富本小学校、戸沢小学校、富並小学校
3. 市内1校に統合する
4. その他（具体的に： _____)

問12. 問11で「2」と答えた方は、どのような方法で統合するのが望ましいと思いますか。居住地の学校区についてお答えください。

(1) 楯岡中学校区 (全て地域懇談会での合意を経てから)

1. 順次、楯岡小学校に統合する
2. 同時に楯岡小学校に統合する
3. その他 (具体的に: _____)

(2) 葉山中学校区 (全て地域懇談会での合意を経てから)

1. 近隣の学校から統合し、最終的に1校に統合する
2. 同時に1校に統合する
3. その他 (具体的に: _____)

問13. 問11で「2」または「3」と答えた方は、もし統合することになった場合、統合の時期はいつ頃がいいですか。

1. 5年以内に
2. 10年以内に
3. 15年以内に
4. 20年以内に
5. その他 (具体的に: _____)

**(6) ご意見・ご提案等がありましたら、ご記入ください
お子様の意見なども記入していただけて幸いです**

お忙しいところご協力いただき、誠にありがとうございました。

小学校の適正配置等に関するアンケート調査票

将来の小学校の在り方に関する検討委員会

村山市教育委員会

このアンケート調査票は、すべての小学校に関する内容です。

中学校の先生方もお答えくださいますようお願いいたします。

あてはまる番号を一つ選んで○をつけてください。(問7・問9は複数回答可)

(1) あなたご自身のことについてお伺いします

問1. あなたが勤務する学校を教えてください。

1. 小学校 2. 中学校

問2. あなたの現在の役職を教えてください。

1. 校長、教頭
2. 主幹教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭
3. 事務職員

問3. 担任の有無について教えてください。

1. 有 2. 無

問4. あなたの教職経験年数について教えてください。

1. 10年未満
2. 10～19年
3. 20～29年
4. 30年以上

(2) 小学校の望ましい学校規模等についてお伺いします

問5. 1学級当たりの児童数は何人くらいが望ましいと思いますか。

1. 1～10人
2. 11～20人
3. 21～33人

小学校の適正配置等に関するアンケート調査票

将来の小学校の在り方に関する検討委員会

村山市教育委員会

このアンケート調査票は、すべての小学校に関する内容です。

地域の方もお答えくださいますようお願いいたします。

あてはまる番号を一つ選んで○をつけてください。(問6・問8は複数回答可)

(1) あなたご自身のことについてお伺いします

問1. あなたのお住まいの地域を教えてください。

1. 楯岡	2. 西郷	3. 大倉	4. 袖崎
5. 大久保	6. 富本	7. 戸沢	8. 大高根

問2. あなたの性別を教えてください。

1. 男性
2. 女性

問3. あなたの年代を教えてください。

1. 10代
2. 20代
3. 30代
4. 40代
5. 50代
6. 60代
7. 70代以上(70歳以上)

(2) 小学校の望ましい学校規模等についてお伺いします

問4. 1学級当たりの児童数は何人くらいが望ましいと思いますか。

1. 1~10人
2. 11~20人
3. 21~33人